

熱い戦いを展開 第105回新春囲碁大会



恒例の新春囲碁大会が、1月18日(木)、長浜ふれあい会館で開催されました。105回目となる今大会には、囲碁愛好家12人が参加し、熱い戦いが繰り広げられました。

なお、入賞者は次のとおりです。

- 【優勝】 大塚 萬作^{まんさく} さん (長浜)
- 【準優勝】 塚木 弘基^{こうき} さん (長浜町出海)
- 【第3位】 谷岡 照基^{てるもと} さん (豊茂)

なでしこジャパンを目指して



昨年12月に開催された第8回四国女子U-12 8人制サッカー大会において、菅田パンサーズが準優勝し、全国大会への切符を手に入れました。

1月15日(月)、メンバー 8人と監督が市役所を訪れ、四国大会の準優勝と、2月17日(土)・18日(日)に滋賀県野洲市で行われる、第7回びわ湖カップなでしこサッカー大会 (U-12) 出場の報告を行いました。選手のみなさんは、「点をとってチームに貢献したい」「悔いのないプレーをしたい」と抱負を語りました。

寒さに負けずゴールを目指して

第35回大洲市健康マラソン大会が、2月4日(日)、若宮堤防で開催されました。レース前に行われた開会式では参加者を代表して、柚木地区の福住公宏^{まさひろ}ファミリーが選手宣誓を行い、楽しく元気に走ることを誓いました。

当日は雪が舞うあいにくの天気でしたが、参加した552人のランナーは、観客からの声援を受け力強く走り抜きました。



働き方改革に取り組みます

1月31日(水)、清水市長および市管理職員が「イクボス宣言」を行いました。イクボスとは、共に働く部下のキャリアと生活を応援し、組織として業績の結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司のことです。

市では、市民サービス向上への取り組みを推進し、全ての職員が働きやすく働きがいのある職場環境の実現を目指して、働き方改革を進めています。



第17回「レンガのある風景」はがきコンクール作品展

第17回「レンガのある風景」はがきコンクールの表彰式が、1月14日(日)、おおず赤煉瓦館^{れんが}で開催されました。大洲市内外より多数の作品がよせられ、会場には個性豊かな作品が展示されました。入賞したみなさんは次のとおりです。(敬称略)

部 門		氏 名	部 門	氏 名	
大洲市長賞		菊地 章博 ^{あきひろ}	最優秀賞	濱上 夕夏 ^{ゆうか}	
山田きよ賞		山岡 洸子 ^{ひかる}	優秀賞 (赤煉瓦ふれあい倶楽部賞)	上満 眞子 ^{まこと}	
			優秀賞 (国際ソロプチミスト大洲賞)	山下 七夢 ^{なゆめ}	
低小学 学年生	最優秀賞	岩田 瑞姫 ^{みずき}	高・大・一般	最優秀賞	菊地ちはや
	優秀賞 (大洲ライオンズクラブ賞)	児玉 凜子 ^{りんこ}	優秀賞 (大洲ロータリークラブ賞)	中井麻由子 ^{まゆこ}	
	優秀賞 (大洲郵便局賞)	池浦 菜月 ^{なつき}	優秀賞 (大洲史談会賞)	三好 隆 ^{たかし}	
高小学 学年生	最優秀賞	松下 時杏 ^{じあん}	写真	最優秀賞	笹田 雅代 ^{まさよ}
	優秀賞 (大洲金融協会賞)	山下 由乃 ^{ゆの}	優秀賞 (大洲ユネスコ協会賞)	武内 勇雄 ^{いさお}	
	優秀賞 (大洲喜多倫理法人会賞)	黒田 菜月 ^{なつき}	優秀賞 (愛媛県建築士会大洲支部賞)	佐伯 範夫 ^{のりお}	



▲【大洲市長賞】「ひそかにひそむがらくた」



▲【小学生高学年部門最優秀賞】
「赤煉瓦館」

▶【高・大・一般部門最優秀賞】
「歴史の入口」



▲【中学生部門最優秀賞】「ポストと赤レンガ館」



▲【小学生低学年部門最優秀賞】
「赤れんがかん」



▲【山田きよ賞】「世界遺産・萩反射炉」



▲【写真部門最優秀賞】「おめでとー!!」

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ



- 【今月のクイズ】
五郎の菜の花畑の河原に架かる赤色の橋、明治時代の名称は何でしょうか。
- ① 菜の花橋
 - ② 畑ノ前橋
 - ③ 五郎の畑橋

春の到来に胸が躍ります。青年部では、今年、3人の卒業生を無事送り出しました。新たな年度に向けて、第42代会長と共に突き進んでいきます。大洲の商工業、観光業が少しでも発展し、その一翼を担うために活動します。青年部では、共に学び、共に活動してくれるメンバーを募集中です。問い合わせは、商工会議所まで。

【2月号のクイズ解答・解説編】
青年部の事業で行われたスタートアップin大洲。最優秀賞はどんなプランだったでしょうか。

- ① 店舗の魅力を倍増させる店舗シェア事業
- ② おはようと挨拶する事で、欲しい物を買えるアプリ
- ③ 地元のおばちゃんが食事管理してくれるダイエツトサポート事業

正解：①
「スナックが営業していない時間帯に場所を提供して収益を上げる」という発想から始まり、最終的には、スナックの通常営業中にマジシャンや、寿司屋を派遣し、魅力を倍増させるプラン。実現性、将来性、新規性、プレゼン能力で審査され、最優秀賞を受賞しました。



※今月号のクイズの答えは、広報におおず4月号に掲載します。

野鳥



ウミアイサ (海秋沙)
カモ目 カモ科
全長 55cm

ユーラシア大陸や北アメリカ大陸の北部など広い地域で繁殖して、越冬にやって来る、魚食性のカモの仲間です。そのため、くちばしは細くてギザギザの歯が付いています。長浜町の河口部や沖合で出合うことがあります。潜水が得意で、すぐ近くで遭遇しても、知らず知らずのうちに遠くに離れていきます。

普段は小数で生活していますが、繁殖期が近づくと大きな群れになって頭を持ち上げ、雌にアピールします。海では船舶事故などで油の流出などがあると、そこに暮らす生き物たちは大打撃を受けてしまいます。ひいてはめぐりめぐって漁業や海産物、私たちの生活にまで影響が降りかかってきますが、自然災害も人間の問題も、何事も無い平穏な世の中が続くことを願うばかりです。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑤

文化財



藤樹筆大坪流十一ヶ条
並びに川田雄琴奥書
大洲市指定有形文化財(書跡)
大洲市所有

当資料は、中江藤樹が書いた「大坪流馬術の十一ヶ条」に、寛延3年(1750)、大洲藩の儒臣川田雄琴が藤樹の真筆であると鑑定したものです。5代藩主泰温の馬術師範を務めた小林次秀(100石)が当資料を求めたところ、大野家から譲られたと奥書に記されています。

延享2年(1745)、領内で発生した火災によって、多くの藤樹の真筆が失われました。これを憂いた川田雄琴は、門人らと共に領内に残る藤樹真筆の集録を始めます。こうした雄琴の活動は、領内における藤樹真筆への敬仰(うやまい尊ぶこと)を高めるきっかけとなりました。

当資料は、江戸時代に大洲藩教学の礎を築いた2人の筆跡が1つの文書に収められているだけでなく、大洲藩が川田雄琴を中心に陽明学を推進するなかで、藤樹を重要視しようとしたことをうかがうことのできる貴重な資料といえます。

(昭和46年8月30日指定)